

VLBI 科学諮問委員会 第 12 回 議事要旨

日時 2024 年 11 月 27 日 (水) 13:00—15:00 (予定)

出席者 (敬称略) 今井、小山、高橋、西村、秦、町田、三澤

廣田、本間 (オブザーバー)

欠席者 (敬称略) 藤澤

開催方法 Zoom

報告

- (1) 今期(2024 年 9 月から 2026 年 8 月まで)の当委員会構成員について確認した(資料 2_国立天文台 VLBI 科学諮問委員会委員名簿.pdf)。また、副委員長をすぐには指名せず、委員長が必要に応じて指名することとした。
- (2) 前期にまとめた本委員会最終答申案 (資料 6_VLBI 科学諮問委員会最終答申案 20240731.pdf) から今期への申し送り事項を確認した。
- (3) 水沢 VLBI 観測所 (以下、観測所) 本間所長より、故障していた VERA アンテナ駆動モーターの修理が完了し VERA4 局全てが科学運用に復帰したことが報告された。また、予算の制約がある中で、フロントエンドやバ

ックエンドのトラブルに対処しているが、観測が完全に停止するような重大な問題は起きていないことも報告された。EAVN 観測の提案件数が増加しており、VERA から提供している年間 1000 時間の観測枠を拡大することを検討していることも報告された。

(4) EAVN TAC メンバーである廣田氏から、EAVN 提案書の審査が進められていることが報告され、次回委員会で統計的情報を報告する予定であることが述べられた。

(5) 2025 年 12 月 8 日から 12 日に新潟で開催される East Asian Meeting on Astronomy の準備状況について小山委員から説明があり、当委員会においても会議への参加・国際討論の内容について意見交換を進めることとなった。

議事

(1) 今期のVLBI科学諮問委員会の開催頻度について

以前は年 3 回程度の委員会開催頻度であったが、諮問事項の多さや急激な状況変化を鑑みて 2～3 か月に一度（年 5 回程度）まで増やすことが提案され、了承された。

(2) 各諮問事項の優先度について

諮問事項(資料4_VLBI科学諮問委員会第4期への諮問事項_final.pdf及び、資料5_VLBI科学諮問委員会第4期への諮問事項_memo.pdf)の順番について、基本線として以下について了承された。また、必要に応じて委員会開催直後に台長に報告・提案することもあることを確認した。

- SKA1 サブプロジェクトの活動(A1)について、観測所から人的・資金的資源の分配を受けており、SKA1 建設も進んでいることから、サブプロジェクトの人員体制に関して次回委員会にてサブプロジェクト長赤堀氏から報告を受けて審議する。
- VLCOP(A2)について、適宜進捗報告を求めつつ、今期後半に評価する。
- JVN と VERA の連携を活性化する方策(A3)についても、A2 に準じて提言を今期後半にまとめる。
- 国際協力案件(A4)について、A3 に準じて審議を進める。ただし、以下2件については、次回委員会の審議対象とする。

(1)天文台が共同運用から撤退することを決めた JCMT について、VLBI 利用に関する過去の実績と予算情報を次回の委員会で本間所長から提示した上で、妥当な購入望遠鏡時間の規模について審議する。その前に、JSAC 委員長佐川氏に本委員会今井委員長が連絡を取り、JSAC との共同審議の可能性について意見交換を進める。

(2)文科省「大学の世界展開力強化事業」(資料 7_大学の世界展開力強化事業 R7.pdf)に関しては、令和 7 年 2 月に説明会があり公募が開始されるので、次回の審議事項に入れる。その中で、グローバルサウス、特に東南アジアやアフリカ諸国との連携、留学生の受け入れ、そして共同研究の推進に向けて、この公募へ大学主体で応募し観測所がそれを支援するべく、今後の具体的な提案に向けて情報共有を進める。

- 新規開発項目(A5)について、開発代表者から開発状況について適宜まとめの説明を求め、今期後半を目処に観測所による支援のあり方やユーザーへの公開も含めた効果的活用についてまとめる。